

| 横浜市環境創造審議会 第3回 基本政策部会 会議録 | |
|---------------------------|--|
| 日時 | 平成23年12月1日(木) 15時30分～17時30分 |
| 開催場所 | 横浜市開港記念会館(2階 7号会議室) |
| 出席者 | 進士五十八、亀屋隆志、佐土原聡(3名)*敬称略 |
| 欠席者 | 織朱實、後藤ヨシ子、小堀洋美(3名)*敬称略 |
| 開催形態 | 公開(傍聴人 なし) |
| 議題 | (1) これからの環境行政のあり方について |
| 決定事項 | — |
| 議事 | <p>開会</p> <p>議事</p> <p>(1) これからの環境行政のあり方について</p> <p>(事務局) 本日は、資料3について特にご意見をいただきたいと思っています。</p> <p>(進士部会長) 資料3(提言)の17ページ以降、「4.東日本大震災を踏まえ、緊急に対応が必要な取組」は庁内で共有できているのでしょうか。また、予算化は進んでいるのでしょうか。</p> <p>(事務局) 現在進めている予算編成作業の中で極力反映する方針です。</p> <p>(進士部会長) 仕上がりの全体像と、盛り込む提言が大事であると思っています。本日は出席委員から一人ずつ、感想を含めたご意見をいただくこととします。</p> <p>(佐土原委員) 今までの部会の意見を整理して体系的にとりまとめができていると思います。</p> <p>ITの活用や情報周知に関する内容が、ハザードマップの作成等の記述でいろんな箇所に出てきていますが、環境教育かまちづくりに絡めて、情報ということで1つの柱として提言の中に示してはどうか。</p> <p>横浜にはGISデータも含めて様々な科学的情報の蓄積がありますが、その情報の共有と活用について記述することが考えられます。調査結果などの情報も活用できるようにするとよいと思います。</p> <p>防災面と環境面の話が提言の中で出てきていますが、日常と非日常が繋がっていることを強調してほしいと思います。</p> <p>まちづくりにおいて、今後、コンパクト化が進むと考えられます。人口減や高齢化等の社会的な状況を踏まえながら、徐々に作りかえていくことを提言の前段に盛り込めたらよいと思います。</p> <p>(進士部会長) 提言案は、「環境と人・地域社会」「環境と経済」「環境とまちづくり」の3つに分かれています。ITの活用は全てに関係します。そのため、「3.東日本大震災を踏まえた、これからの環境行政のあり方」よりも前で記述することが考えられます。または、地元企業に関する内容であれば「環境と経済」に入れるなど、強調すべきところに記述することが考えられます。</p> <p>今回、東日本大震災を受けて意識の変化があり、技術至上主義や安全神話は崩れました。環境を技術的に確保することはできないという流れになってきています。横浜のまちづくりの将来像をどうすべきかを考えた時、コ</p> |

| | |
|---------|--|
| | <p>コンパクトシティや自然との共生、規模ではなく質を重視するといったことが考えられるのではないのでしょうか。大きなビジョンを持って考えるべきということは、提言の全体に関わる内容です。2ページは、提言全体についての記述になっていますが、ここに情報についての記述を入れてはどうでしょうか。</p> |
| (事務局) | 2ページに情報の活用等について記述を入れたいと思います。 |
| (進士部会長) | <p>13ページにある「観光」は、非日常の環境とのふれあいといえます。レクリエーションは日常的な環境とのふれあいといえます。そのため、「観光資源」という表現は、非日常で利用するのが適切だと思います。</p> <p>市民アンケート調査では森林を身近な緑として感じている市民は多くないということですが、市としては、都心ではない地域にある樹林地などを保全しようとしており、日常と非日常の融合を目指しているといえるのではないのでしょうか。</p> <p>「観光」は市外の人向けというイメージがありますが、市民が市内を観光するなど、日常の中に観光の要素があってもよいと思います。日常と非日常が融合することによって、地域の人・物・金の循環がうまくいき、意識のうえで市民としての一体感、連帯性を持てるとうよいと思います。それが、環境都市の実現につながるのだと思います。</p> |
| (佐土原委員) | 今回の東日本大震災のような災害も非日常です。非日常も日常も、その基盤として環境が大事であるといえます。 |
| (進士部会長) | レクリエーションの場としての公園も、災害時のことを考えると防災になります。 |
| (事務局) | 防災公園は、日常と非日常が融合した1つの例であるといえます。 |
| (進士部会長) | 観光と公園について記述している箇所、日常と非日常の融合について記述してはどうでしょうか。 |
| (佐土原委員) | コンパクトシティについては、「3. 東日本大震災を踏まえた、これからの環境行政のあり方」より前に整理していただければよいと思います。 |
| (亀屋委員) | <p>3つの柱の整理がすっきりとしており、分かりやすいとりまとめになっていると思います。</p> <p>資料2（市民アンケート調査等の結果について）の8ページ、横浜市の環境の満足度について記述があります。横浜の緑について、もっと不満が多いと思っていましたが、満足度が意外に高いことに驚きました。</p> <p>緑に対する満足度と比較して、「大気や騒音・振動などの状況（生活環境の状況）」「河川や池などの水辺」「横浜港の水質の状況」「昆虫や魚、鳥などの自然の中の生き物の状況」の満足度が低くなっていることについて、提言の中でもう少し触れてはどうでしょうか。提言全体が東日本大震災を受けた内容に偏っているように感じますが、震災以外についても記述してよいと思います。</p> <p>市民アンケート調査の結果では、矛盾した結果もあります。不満と思っている項目が、市への要望では高い位置にないこともあります。市民の関心</p> |

が薄いためにそのような結果になってのではないかと思います。例えば、44 ページ、電気自動車に関する施策については、横浜市の取組状況・取組姿勢について、「不十分」という回答が他と比べて多くなっていますが、45 ページ、優先的に取り組んで欲しい事項としては、要望が少ないという結果になっています。

情報の周知が不十分と思っている市民が多く、また、テレビや新聞など、自然に目や耳に入る情報源から情報を得ていることがうかがえます。情報を目や耳から入りやすくすることが大事であると感じました。

(進士部会長)

本日、参考資料として、日本学術会議 環境学委員会の中の環境思想・環境教育分科会で示した提言「高等教育における環境教育の充実に向けて」という提言の一部を配布いたしました。環境教育を進める上では、地元大学や地元の各種セクターとの連携が重要と記述されています。

テレビ等を情報源にしている市民が多いようですが、正しい知識でないこともあります。そのような状況の中、市民の理解を正しくするために、大学の役割は重要と考えます。

例えば、生物多様性を保全する際に、それぞれの関係性を考える必要があるにもかかわらず、ある生物だけにとられるといった非科学的なことがあります。冷静で科学的な情報を適切に市民に伝えるシステムを構築することが大事です。

行政の役割として、安定的に正確な情報を市民に発信する必要があります。大学との連携については、提言の環境教育のところでは記述するか、地域との連携として記述するかになると思います。

行政からの情報、大学の科学的な情報が市民に伝わるシステムの構築が必要です。また、市民にとっての環境情報がどのような形で提供されるのかといった研究を大学が行い、市がそれに協力する形もよいと思います。また、地域の様々な組織が環境につながることも重要です。参考資料では、自然環境を研究・調査している地域の人材が大学の講師となり教えることも環境教育の充実のための1つの手法として示されています。

昔は行政に公害専門の人が多かったが、今は社会科学系の考えを持ち、次世代のことを考えるということも重視されるようになってきました。

大学との連携、情報が一元化され、それが大学でも使えるということが重要です。学校の先生が情報を得ることができれば環境教育の充実にもつながると思います。

もう1枚配布した参考資料（日本学術会議 東日本大震災対策委員会 被災地域復興の復興ランド・デザイン分科会 提言「東日本大震災被災地域の復興に向けてー復興の目標と7つの原則（第二次提言）ー」の一部）に「流域自然共生都市」というキーワードがあります。この参考資料には、今までは高い建設技術に基づいたインフラを整備し、防潮堤を高くすることで安全が確保されると思っていましたが、東日本大震災によって、それだけでは安全を確保できないことが記述されています。横浜市においても、行

| | |
|---------|--|
| | <p>政境ではなく、森林、河川、農地を流域ごとに一体として捉えることが大事であると思います。広域の下水道網の中には、流域境を越えているものもあるように思います。流域都市として横浜を考えることが大切だと思います。</p> <p>亀屋委員からの指摘のとおり、市民が不満を持っている点については、もう少し提言に盛り込んではどうでしょうか。</p> |
| (事務局) | 電気自動車の普及については、18 ページに記述しています。 |
| (進士部会長) | ハイブリット車のタクシーが増えてきていると聞いていますが、なぜでしょうか。 |
| (事務局) | 神奈川県がハイブリッド車の購入補助をしているからではないでしょうか。横浜市では、電気自動車の補助は既に実施しています。新たなプラグインハイブリッド車についても導入補助を進めていきます。 |
| (進士部会長) | 電気自動車等の導入は、温暖化対策になるのでしょうか。 |
| (佐土原委員) | 電気自動車で利用する電気は発電所で効率的に作られています。そのため、電気自動車はガソリン車よりも燃費が良くなり、その導入は温暖化対策になります。 |
| (事務局) | 自宅で太陽光発電を行い、それを電気自動車に利用することも考えられます。 |
| (進士部会長) | 耕作放棄地に太陽光発電システムを導入しようという動きがありますが、その場所はいずれ農地として利用できるのでしょうか。長期的にみれば食糧生産のことも考える必要があると思います。 |
| (佐土原委員) | 耕作放棄地への太陽光発電システムの導入はある程度の期間だけだと思います。 |
| (事務局) | コスト的な問題もありますが、1つの発電システムに頼ってよいのか、それとも多様な発電システムがよいのかを考える必要があると思います。経済性を考えると、1つの発電システムを利用するほうがよいと思いますが、非常時に困ることが考えられます。 |
| | 六本木ヒルズはコジェネレーションシステムを導入しており、東日本大震災のときに停電の心配がなかったと聞いています。自立分散型のエネルギーを確保することは大事だと思います。 |
| (進士部会長) | 六本木ヒルズのような施設ばかりを作ることは不可能です。 |
| (佐土原委員) | 非常時に停電になっては困る企業については、六本木ヒルズのような施設に集約し、それ以外の企業については、いろいろなものをミックスする方法が良いと思います。企業ごとの必要性にあわせて対応するのがよいと思います。 |
| (進士部会長) | 1つに偏らずバランスよく様々な技術を利用することは効率的ではありませんが、リスク管理上は重要だと思います。効率だけではなく、文化の持続の為に様々な技術を併用した方がよいのではないのでしょうか。また、リスクについても考えることが、持続可能な社会の実現につながると思います。 |

| | |
|--|---|
| | <p>(事務局) コストがかかっても、リスク管理上は必要なこともあると思っています。</p> <p>(亀屋委員) 市民アンケート調査での不満が、直接リスクに結びつくわけではないと思いますが、生物の生育・生息環境となりうる緑を創出する、または補う、回復するといった記述を加えてもよいと思います。</p> <p>電気自動車は二酸化炭素の排出量を抑えるだけでなく、大気環境の保全や騒音対策などにもつながります。1つの取組が他の効果にも連動することを提言の中で記述してはどうでしょうか。</p> <p>(事務局) 横浜港の水質については、記述を追加します。</p> <p>市民意識調査の満足度の設問では、「横浜港の水質の状況」「昆虫や魚、鳥などの自然の中の生き物の状況」について、「わからない」という回答が多くなっており、実感がない市民が多いのではないかと推察しています。</p> <p>(亀屋委員) 市民に情報がうまく伝わっていないのかもしれないかもしれません。</p> <p>(進士部会長) 14 ページからの提言ですが、項目によっては説明文章が短く、趣旨が伝えきれていないところがあると思います。もう少し具体的な提案を追加してはどうでしょうか。</p> <p>15 ページ、多面的な機能を持つ公園に関する記述の中に生物多様性についても書いてはどうでしょうか。生物多様性保全活動促進法が制定され、国土交通省、農林水産省、環境省も生物多様性の保全の取組を始めています。しかし、まだ市民には生物多様性の重要性は十分に伝わっていません。</p> <p>環境教育の場として利用できるように公園のリニューアルやリフレッシュが必要だと思います。積水ハウスの「5本の木」のようなキャッチフレーズがあるとよいと思います。今は市民の意識と行政の取組に乖離があると思います。公園が生物の生育・生息環境でもあると市民が認識することが重要だと思います。</p> <p>市内の小学校ではビオトープの整備が行われています。公園にも池を整備する等の新しい事業を実施してはどうでしょうか。市民の協力を得て雨水を貯め、それを利用することも考えられます。ヨーロッパのクラインガルテンではそのような取組を実施しています。横浜市はエコアップ運動を進めており、素地はあると思います。</p> <p>例えば、草丈の違いで生息している動物が違うことなどを環境教育の中で教えてはどうでしょうか。</p> <p>(亀屋委員) 動物の餌となる実のなる樹木を公園に植栽することも考えられます。</p> <p>(進士部会長) 身近に緑をつくる都心づくりが必要だと思います。</p> <p>提言の中で「自然が感じられる都心づくり」とありますが、都心部の緑や水から感じられるのは景観だと思います。公園や街路樹から自然は感じないのではないのでしょうか。自然という場合は、生物についても記述する必要があると思います。</p> <p>エコスタイルを実践すると、自動車に依存しない生活となりますが、その結果、緑に触れる機会が増えると思います。自動車だけに焦点を当てると交通の話になりますが、自動車を使用せずに歩くことで、道端の緑を見る</p> |
|--|---|

| | |
|---------|--|
| | <p>機会が増えます。両面について市民に伝えることが必要だと思います。</p> |
| (佐土原委員) | <p>健康のための環境づくりにつながるということも記述してはどうでしょうか。</p> |
| (事務局) | <p>車に依存した都市構造ではなく、高齢者も歩いて暮せるまちづくりが必要ということだと思います。</p> |
| (進士部会長) | <p>現在の街路樹は樹種が少なく、歩いていて面白くないと思います。</p> |
| (事務局) | <p>様々な樹種を街路樹に入れようとしているところです。ただ、様々な樹種を導入すると統一感がなくなることが懸念されます。</p> |
| (進士部会長) | <p>街路樹が植栽されている場所の機能を考えて、種類を選ぶ必要もあると思います。ただ管理しやすいからサツキを植栽するというのでは、歩いていて飽きます。市民がよく歩くところには多様な植物を植栽し、触りたくなるような工夫が必要ではないでしょうか。歩きたくなる環境整備が必要です。</p> |
| (事務局) | <p>少しずつ街路樹の管理方法は変わってきています。例えば、最近では樹種を踏まえて樹形を考え、剪定をするようになっていきます。</p> |
| (進士部会長) | <p>これからは足もとの緑の整備についても考えてほしいと思います。横浜みどり税の活用も考えてみてはどうでしょうか。</p> <p>現時点の提言では、緑によって町歩きを楽しくするなどの具体的なイメージがわかりません。タイトルからどのような事業かがわかるとよいと思います。例えば、「住民が親しめるみどり化事業」ではどうでしょうか。市民に伝わらないと提言を示す意味がないと思います。みどりのオープンフォーラムで話のあった、tvkハウジングプラザ横浜や企業の屋上緑化の件も提言にいれてはいかがでしょうか。</p> <p>事業者の取組を促進するためには、市民を表彰したり、情報発信したりすることにより、他の事業者にも取り組んでもらうようにしてはどうでしょうか。</p> <p>イベントを絡めて、市内の農産物加工品を販売している場所があるようです。</p> |
| (事務局) | <p>みなとみらい21地区では、「みなとみらい農家朝市」を実施しています。</p> |
| (進士部会長) | <p>そのような取組を強化することが必要だと思います。もっと市街地での開催場所を増やしてはどうでしょうか。</p> |
| (事務局) | <p>13ページに地産地消について記述しています。郊外で栽培された農産物を都心部で購入できるようなシステムが必要だと思っています。</p> |
| (進士部会長) | <p>今まで横浜市において様々な取組を進めてきていると思います。担当課から情報を得て、事例を提言に記述することが必要だと思います。</p> |
| (佐土原委員) | <p>今までは、行政が作ったものを市民に渡すという流れでしたが、使う側の市民と連携しながらつくっていくという視点が必要になってきていると思います。</p> <p>15ページ、災害対策としてライフライン機能の記述がありますが、建物側（使用する側）で自立的な機能を備えながら供給側と連携していく、地域</p> |

| | |
|---------|--|
| | の人々と協力して取組を行っていくという視点も入れてはどうでしょうか。 |
| (事務局) | パブリックインボルブメント（市民参画）についての記述を加えることを検討します。 |
| (進士部会長) | 13 ページ、「(1) これまでの取組に対する評価と東日本大震災を踏まえた課題」では、東日本大震災から地域の連帯が大事であることが分かってきたことを記述しています。連帯を強める方法として、今後は足もとの整備を住民に依頼することにより、コミュニケーションを図るということを記述してはどうでしょうか。 |
| (佐土原委員) | エネルギーについては、安定供給するために地域のエネルギーをマネジメントすることが重要です。 |
| (進士部会長) | 市民へのメッセージとして、どのようなことが求められているかを記述してはどうでしょうか。大学との連携についてはどこに盛り込むことが適切でしょうか。 |
| (事務局) | 11 ページ、環境教育の記述に追加してはどうでしょうか。 |
| (進士部会長) | それでよいと思います。 |
| (亀屋委員) | 大学等の高等教育機関では普及啓発だけでなく、10 ページにある「見える化」をどのように具体化するかについて取り組んでいくことが求められていると思っています。市民アンケート調査において、行動しない理由として効果が実感できないからという回答が少なくありませんでした。そのことに対しても対処が必要だと思っています。 |
| (進士部会長) | 市のホームページはどのくらいの頻度で更新しているのでしょうか。 |
| (事務局) | 随時更新しています。 |
| (進士部会長) | 環境情報を伝えるページもあるのでしょうか。放射性物質の濃度のモニタリング調査とその結果の公表については、どのように継続して取り組んでいるのでしょうか。市域全域で行うことが大事だと思います。 |
| (事務局) | 放射線の測定結果も市のホームページで随時更新しています。 |
| (進士部会長) | 行政が森に行きましょうと呼びかけても、その森の放射能が測定されなければ市民は不安で行きたくないと思います。 |
| (事務局) | 市民の森についても既に調査を実施しています。また、農産物についても調査を実施し、結果をホームページで公表しています。 |
| (亀屋委員) | 情報は、DSR (D: Driving force, S: State, R:Response) をセットで示すことが必要です。つまり、調査結果だけでなく、その値から何が分かるかについても公表することが必要です。「見える化」の方法と絡めて解説を加えてはどうでしょうか。 |
| (事務局) | 既に様々な取組を進めています。今後、放射能の測定モニタリングポストを増やすことについても検討が進められています。 |
| (進士部会長) | 17 ページに示されている情報の公表については、既に取り組んでいるということですのでよいでしょうか。ホームページで既に示しているのであれば、そのことについて記述してはどうでしょうか。 |

| | |
|---------------------------|---|
| | <p>(亀屋委員) 「見える化」していることを公表すべきだと思います。市民に伝えきれていないために、市民アンケート調査で「何をしたらよいかわからない」という回答が多いという結果につながるのだと思います。</p> <p>(進士部会長) 市民がアクセスしやすい環境に関するホームページを作ること、充実させることが必要ではないでしょうか。</p> <p>(亀屋委員) 市民が情報を検索しやすいことが重要です。</p> <p>(事務局) 分かりやすい工夫をするようにします。</p> <p>(進士部会長) 横浜の環境の良い部分も悪い部分もまとめて示されたホームページがあるとよいのではないでしょうか。そのホームページに示された内容に取り組むことで横浜型エコスタイルにつながるということがよいと思います。</p> <p>(事務局) ホームページへのアクセスのしやすさも課題の1つだと思っています。</p> <p>(亀屋委員) 市民に見てもうらおうという気持ちが大事だと思います。</p> <p>(進士部会長) 提言では、多少のインパクトを与える内容を入れてほしいと思います。市民目線でとらえることを、提言全体に入れるようにしてください。東日本大震災により、改めて環境を見直す機会を得たと思います。本日のご意見、お休みの委員からのご意見を踏まえて提言を修正し、とりまとめてください。</p> <p>(事務局) 本日いただいたご意見等を踏まえて報告案をとりまとめ、今年度中に環境創造審議会において報告する予定ですのでよろしく申し上げます。</p> <p>(進士部会長) 市民アンケート調査等の結果はどこかに入れるのでしょうか。</p> <p>(事務局) 資料として、提言の最後に示す予定です。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p> |
| <p>資 料 ・ 特記事項</p> | <p>1. 資 料 資料1：横浜市環境創造審議会基本政策部会委員名簿 資料2：市民アンケート調査等の結果について 資料3：これからの環境行政のあり方について～東日本大震災を踏まえて～（平成23年度提言） 【基本政策部会・報告案】</p> <p>2. 特記事項 なし</p> |